



FORD MUSTANG V6 COUPE
これでカマロV6とガチ勝負!

旧型の4リッターV6 SOHCに代わって新設計の3.7リッターV6 DOHCが搭載された。これにより最高出力は213psから309psへと大幅アップ。同時に燃費も改善されている。インパネの透明色を好んで選べるのはステキ。V6モデルはクーペのみで430万円。



02 国内試乗

マスタング、V6モデルも進化!
しっかり感がいい!

すでにV8モデルに関してはお伝えしたが、2011年マスタングのV6モデルが日本へ来た。目玉はV8同様エンジンのパワー。これまで210psだった数値は一挙に309psで高められた。しかも排気量は3.7リッター300cc減らされている。いうなればこれもダウン・サイジングの一環だ。

それを成し遂げたのはSOHCからDOHCとヘッド回りを変更したこと、Ti-VCTと可変システムを採用したこと。後者はツイン・ディペンデント・バリアブル・カムシャフト・ベリングの略で、吸気バルブと排気バルブが開いている時間を高精度に可変制御することで燃焼のムラを省き機械的効率を高めた。

なんて話ともかく、V6でもガツンガツンめめるようになった。アクセル・レスポンスも、なによりボディ自体しっかりしたようになる。きっとV8が400psを超えたことで、ボディ自体に強化が施されたのだろう。それ以前にはV6でもV8に似た高回転域でのせというエンジン音が気に入った。洗練されたもフィーリングはアメリカンである。でもこれでカマロのV6とガチで勝負できるような。相手は309ps! 1ps違っるところにモアを感じるでしょ?

04 国内ニュース

GM系のユニークなディーラーがオープン!
店舗独自のモデルが誕生!

「それでは、いまから『シボレー・カマロ・ジオバンナエディション』のアンベールを行います——」

「アンベール? これって、まるでカーショウだね」

12月4日、中央高速の国立・府中インターからすぐのところ「キャデラック・シボレー・国立」がオープンした。冒頭の会話はその試日に行われたレセプション・パーティでのひとコマである。

ではなぜメーカーでもないのにクルマのお披露目が行われたのか、じつはこのディーラーはグループ会社がアメリカのホイール・メーカー、ジオバンの日本総代理店をやっている。その名はジオバンホイールズ・ジャパン。なので、そのホイールを履いた特別モデルをオープン記念につくったのだ。

これはアメリカでは普通のこと。有名どころではマスタングCS(カリフォルニア・スペシャル)も西海岸のディーラーで誕生した。つまり、このディーラーはかなりアメリカンなのだ。全米最大のアフター・ホイール・メーカーとのコラボは見逃せない! (丸島)

Photo by Morio Yukihiro



03 国内試乗

ジープ・グランドチェロキーSRT8に乗り
いよいよ最後です!

タイムラーとクライスラーがひとつの会社だった時代の産物。そのひとつがSRT(ストリート・レーシング・テクノロジー)である。

SRTはいうなればクライスラー系AMGで、エンジンとシャシーをグッとパワーアップしたモデルに付けられる名称だ。V8ならSRT8、V10ならSRT10と呼ばれる。ちなみに、当時V6のクロスファイアにもSRT6というのがラインナップされていた。

グランドチェロキーのSRT8だが、エンジンはクライスラー300Cでメジャーになった5.7リッターV8 HEMIを6.1リッターにスーパースタックアップしたもの。最高出力は426psで0-100km/h加速は約5秒。なので、ガ

ツンとアクセルを踏み込んだときの加速は超ド硬。インと前へ進む力はまるでドラッグ・レーサーといった感覚である。10年前に試乗したフルサイズ・セダンのV10を換むラム・チャージャーを思い出した。

そんなキャラクターだからサスペンションもハードになっていけば、ブレーキもブレンボ製キットが標準。でもってそれをロー・プロファイルの20インチタイヤが路面に伝えるのだからただ者じゃない。まさにジャジャ馬。このパワーと固体で748万円は安いかも。2011年登場の新型に異性権は予定はないというから最後のチャンスです。(丸島)